

小学校図書館におけるサインシステムの現状と課題

柁木 美穂

学校図書館は、利用者の図書館活用スキルに関わらず、利用者が求める資料にたどり着けるための仕組みを提供する必要がある。その一つにサインシステムの整備があるが、これまで小学校図書館におけるサインシステムの実態は十分に明らかにされていない。そこで本研究では、小学校図書館におけるサインシステムの現状を明らかにし、小学校図書館におけるサインシステムの課題を考察することを目的とした。

本研究では、まず文献調査からサインの意義や目的、役割を明らかにした。公共図書館等他の図書館では、職員の負担軽減と利用者が求める資料への効果的なアクセスのためにサインシステムが検討され、活用されている。学校図書館においてもサインシステムの整備によって同様の役割が期待され、サインの計画的な設置が求められる。こうした図書館におけるサインシステムは案内誘導機能、識別機能、指示機能の3つの機能から構成される。学校図書館の実践例の分析から、学校図書館におけるサインは識別機能のサインに偏り、全体的なサインシステムの構築に関する事例もあまり見られないことが明らかとなった。また、学校図書館担当者を対象に行った聞き取り調査では、小学校図書館におけるサインの設置の現状と担当者の意識について分析した。その結果、(1)ほとんどの学校で識別機能のサインが設置されている一方で、案内誘導機能のサインはあまり見られず、指示機能については学校ごとに設置状況が様々であること、(2)図書館の雰囲気づくりのためにサインが活用されていること、(3)サインの設置や変更を行う際には利用者視線が意識されていること、(4)多くの図書館担当者は児童が図書を探すためにサインが必要であると回答する一方で、児童がサインを十分に理解していないと認識していること、(5)サインを設置するためのスペースが限られ、製作するための予算や時間もないこと、(6)サイン製作の多くは学校司書が行っているが、学校司書のサインに関する知識は十分でないことの6点が明らかになった。

これらのことから、小学校図書館におけるサインシステムの今後の課題として、(1)製作の時間不足を補うために近隣の学校間でサインを共有し製作の効率化を図ること、(2)全ての機能について、効果的なサインの配置を検討すること、(3)個々のサイン設置だけでなく、利用指導を含めた総合的なサインシステムを立案すること、(4)学校図書館担当者がサインを学ぶ機会を充実させることの4点が考察された。また、利用者を学校図書館内に誘うためにサインが利用され、重視されていたことから、このような機能が他館種では見られない特徴であり、学校図書館のサインシステムに必要な機能であると考え。本研究ではこうした機能を歓迎機能と定義した。今後は、児童視線のサイン作りを意識しながらも、案内誘導機能、識別機能、指示機能、歓迎機能を関連付けた総合的なサインシステムを構築することで、学校図書館が児童の読書活動・学習活動の推進により一層寄与できるものと考え。

(指導教員 平久江祐司)